

## 専門性とネットワークで支援



指定障害者支援施設  
元気丸  
山本 円

私は障害者支援施設元気丸に勤め11年を迎えます。東日本大震災当日は夜勤明けではありませんでしたが、残務処理をしており、施設の中が大きく揺れ、その揺れがしばらく続いたことを鮮明に覚えています。幸いにも当施設は人的、物理的被害もなく、ライフラインが回復するまで利用者さんの不安をいかに軽減するかに専念するだけでしたが、2週間あまりの期間は非常に長く感じたことも記憶しています。

我々元気丸の大変さは、沿岸部の方々の生活に比べると比ではありません。今年度は知的障害者福祉協会の理事を仰せつかり、被災地の余暇支援を担当させていただくことができました。今回はその内容を紹介させていただきます。

昨年の10月に陸前高田市のあるホーム祭りのお手伝いをさせていただきました。私は大震災直後に山田町のはまなす学園さんの支援をさせていた

だいたきりでしたので、1年ぶりの沿岸部に懐かしさを感じると同時に、まだ震災の爪痕が残る情景に心が痛みました。そんな中、あすなるホームの皆さんは笑顔で迎えてくれ、利用者さん、保護者さん、そして施設の職員の方々が総出でお祭りを企画していただき、支援を担当する私が逆に力を頂戴した気持ちになりました。一生懸命焼きそばを焼きましたが、力及ばず、屋台の前は長蛇の列であり、お待たせして申し訳なかったことも覚えていています。

東日本大震災からもう少しで2年が経過します。我々内陸部の福祉従事者は、震災復興に向けこれからも努力を惜しんではいけません。一支援職員として私が感じ、実践したいことは、プロ意識を持ち、障害福祉とその支援を個々に、そしてネットワークで高め続けることです。福祉サービスを必要とする障害児・者に対し、それぞれの方々とご家族の方々が安心して生活できる資源づくりと、同じく必要な我々従事者の志と専門性。知的障害者福祉協会の一員として、研修会での発信や仲間とのネットワークを強化していくことが、沿岸部の方々の安心と復興につながると思います。

微力ではありますが、被災された方々の思いを胸に、これからも努力していきたいと思っています。

ーク・ライフ・バランスを推進することを目的にセミナーを開催します。セミナーでは、ワーク・ライフ・バランスについて理解を深めるための講演のほか、県内企業の具体的な取り組み事例も紹介します。

- 日時：2月8日(金)13:30~15:40
- 会場：ホテルメトロポリタン盛岡本館
- 対象：企業及び施設等の経営者・人事労務担当者、一般労働者、行政関係者、ワーク・ライフ・バランスに興味がある方など100名(先着順)

●参加費：無料

●内容：

講演 講師：株式会社東レ経営研究所 特別顧問 佐々木常夫氏  
事例発表 株式会社岩手日報社(平成24年厚生労働省「子育てサポート企業」認定)

<申し込み・問い合わせ先>  
(公財)いきいき岩手支援財団総務課  
電話：019-626-0196  
FAX：019-625-7494  
メール：wlb@silverz.or.jp



### 岩手県災害ボランティアセンターの名称変更について

岩手県社会福祉協議会では東日本大震災直後より岩手県災害ボランティアセンターを開設し、運営をしてきました。震災から1年10か月あまりが経過し、沿岸地域におけるボランティアニーズは生活支援への対応へ重点が移っており、地元住民主体の地域福祉活動も本格化し始めています。

また、平成24年12月23日をもって、沿岸部の災害復興等ボランティアセンターを設置したすべての市町村では、名称を「災害ボランティアセンター」から「復興ボランティアセンター」などに変更しました。

これを受け、当センターでもその名称を使用しないこととし、従来から設置している「岩手県社会福祉協議会ボランティア・市民活動センター」の活動の中で、被災者支援ボランティア活動にも取り組んでいくこととします。

### 平成24年度ワーク・ライフ・バランス推進セミナーの開催

公益財団いきいき岩手支援財団ではワ

パートナー



### 44回目のクリスマスケーキ贈呈

白石食品工業株式会社より昨年12月25日、盛岡市内及び近郊の86の社会福祉施設にクリスマスケーキを贈呈いただきました。

贈呈式は本社にて行われ、白石茂社長より施設利用者代表へ手渡されました。

同社のケーキ贈呈は昭和43年から行われているもので、今年で44回目となります。

